

# 日本ユニセフ協会への寄付報告

当社では、2015年からお客さまが古紙を持ち込むたびに日本ユニセフ協会へ10円を寄付し、世界の子どもたちのために役立てる活動を行っております。昨年の実績分として、1月14日に日本ユニセフ協会へ89,000円を寄付させて頂きました。  
この取組みを始めて10年になりますが、今後も継続した支援を行うことを目指してまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



# 本を起点とした新たなプロジェクト「hontono」



「hontono」のロゴは、プロジェクトの軸となる「本」に、プラスと輝きをイメージしたモチーフを配置することで、本と(本当)の出会いが「人生にプラスの輝きをもたらしますように」という願いを込めています。

インターネットとAIの進化は目覚ましいものがあります。一方で、業務の効率化には良い反面、都合のいい情報に偏ったり、思考力・想像力・対話力が低下することが危惧されます。そんな中、本は、分断された世界と自分との関係を見つめ直し、つなぎなおすための"古くて新しい"メディアです。日々古紙を扱う当社では、「hontono」を通して、本当の世界、本当の自分を見つけ、受け取るだけでなく、捉え直す編集可能性を提案していきます。詳細は随時お知らせしてまいります。

# "弱さ"に光を当てるインクルーシブ絵本

現在、出版に向けて、絵本制作を進めております。一緒に制作するのは、インクルーシブ絵本づくりを通して、障害児やその家族を支援している非営利団体です。これは「hontono」の取り組みの一つとして、社会の中で見えにくくされてきた小さな「負」と「負」をつなぎ、その弱さに光を当てていく文化的な実践の一つです。今後も絵本を出版していく予定ですが、こうした取り組みが、社会が何を価値として認めるのか、その基準そのものを問い直すきっかけになればと考えています。



発行年月: 2026年4月

当社への持ち込み  
1件あたり10円を寄付

ユニセフへの  
累計寄付金額

## 933,050円

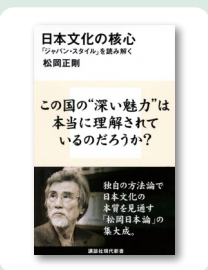
※2026年3月現在

webサイトはこちらのQRコードをスキャン!

www.okutomi.co.jp

# 本の紹介

松岡正剛 / 講談社  
「日本文化の核心「ジャパン・スタイル」を読み解く」



日本には、中国から伝わった漢字をひらがなにアレンジする柔軟な創造性がありました。真・行・草の構えです。強さと弱さを二分する西洋的価値観に限界を感じる中で、小さきものや相容れないものを受け入れ、調和を目指す「ジャパン・スタイル」に、経済と社会のあたらしい突破口を見出せるはずです。

# 編集後記

1976年にダニエル・ベルが現代社会における7つの病気を挙げました。それは、政治・経済・文化が乖離した、解決不能の問題です。そのうちの一つである「いったんうけた戦争の屈辱が忘れられなくなる病気」。アメリカやロシアだけでなく、日本も「戦後」を自分事として受け止め、語りなおさない限り、形を変えた戦争の記憶に悩まされ続けるのではないのでしょうか。

奥富興産株式会社

【発行元】  
〒350-1322  
奥富興産株式会社  
埼玉県狭山市下広瀬782-2  
TEL : 04-2952-3332

【編集責任者】  
奥富 宏幸